神戸六甲ミーツ・アート

小学生以下2000人を招待

８月29日に開幕する現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート2026　beyond」。奈良美智の「Peace Head」＝**写真左**＝と草間彌生の「南瓜」（2014年、特別寄託作品）＝**同右**＝を見られ、国内外で活躍する約60組が出展する。６日までオンラインで前売鑑賞パスポートを販売中。

当日購入より最大300円お得。有料会場に入れる昼パスは3000円（中学生以上）、９月19日から土日祝のみ開催される夜間イベント「ひかりの森～夜の芸術散歩～」に入場できる夜パスは1850円（同）、どちらも入場可能な昼夜パスは4000円（同）。オンライン購入は山上窓口で鑑賞パスポート実券への引き換えが必要。

また、小学生以下を限定2000人無料招待する。希望者は８月28日までに申し込む（先着順）。詳細は公式サイト。同芸術祭事務局☎078・891・0048

（©Yoshitomo Nara）

（©YAYOI KUSAMA）

アスレチックパークGREENIA

真夏の雪まつり実施中

阪神甲子園球場およそ５個分もの敷地がある日本最大級のアスレチック施設「六甲山アスレチックパークGREENIA（グリーニア）」は、７年ぶりに「真夏の雪まつり」を実施している。８月30日まで（土日祝、盆期間の計18日間のみ）。

同まつりでは、16㌶四方の雪原で宝探しゲーム＝**写真**＝や雪山シューティングなどを楽しみ、涼を感じられる。

人気の水上アスレチック「wonder amembo（ワンダーアメンボー）」ではずぶぬれになることも。でも場内にはコインシャワー室が完備されているので大丈夫。神戸の市街地より約５度も気温が低い六甲山。避暑にお越しください。

同施設☎078・891・0366

有馬温泉「太閤の湯」

夏登山の疲れ、解きほぐして

六甲山の登山やハイキングで汗した後は、日本３名泉の一つとされる有馬温泉で、心と身体を癒やしてはいかがだろう。

有馬温泉「太閤の湯」は、豊臣秀吉ゆかりの歴史と温泉文化を体感できる歴史探訪クアテーマパーク。名湯「金泉」「銀泉」をはじめ、炭酸泉（人工）など26種類の風呂や岩盤浴を楽しめる。

開放感あふれる露天風呂＝**写真**＝や趣向を凝らした浴場では、登山でほてった身体をゆっくり解きほぐし、心も深いリラックスへ導いてくれる。

タオルや館内着を備え、手ぶらで利用できるのも魅力。六甲山の豊かな自然を満喫した後は、まちで極上のリフレッシュタイムを。登山の締めくくりにふさわしい、ぜいたくな癒やしのひとときを体験してほしい。

同施設☎078・904・2291

六甲大学 ROKKO-SAN DAIGAKU

六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。（原則、毎月第３月曜日に掲載します）

夏休み、自然学べるイベント続々

根岸真理が案内　山の四季便り

市街地からすぐの裏山、六甲山は緑豊かな森に覆われ、いろいろな生物が暮らしている。手軽に自然観察を楽しめ、昆虫や野鳥などに出合える貴重なフィールドだ。筆者がボランティアで「山の案内人」をしている六甲山ガイドハウスにも、夏には虫を探す親子連れがよく訪れる。夏休みに向け、六甲山の自然について学べるイベントがいろいろ企画されているので、まとめて紹介しよう。

ねぎし・まり　アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう！」など。

◆六甲山ビジターセンター　圧巻、チョウの全標本展示

六甲山系に生息するチョウについて知りたいなら、同ハウスと同じ場所にある兵庫県立六甲山ビジターセンターの展示「みんな知っとう？　チョウのあれこれ２０２６～神戸・六甲山のチョウの魅力～」へ。全標本がずらりと並び、圧巻。クイズなどを交え、姿を消しつつあるチョウや海を越えて旅をする渡りのアサギマダラ、幼虫のイモムシの生態、チョウと環境問題との関わりなども学べて面白い。８月30日まで。

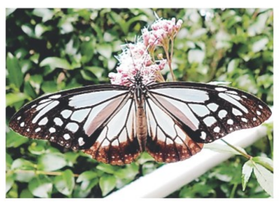
左昨年度の六甲山ビジターセンターのチョウ展示**右**イラスト付き、クイズ形式で昆虫の生態を展示したものも＝いずれも神戸市灘区六甲山町北六甲

◆六甲高山植物園　食虫植物の生態観察

ちょっと不気味だけど面白い、虫を捕まえて食べる食虫植物に興味があるなら、六甲高山植物園へ。伊丹市昆虫館などの協力によりイベント「しょくぶつとむし」を開催中で、「むしの目線でしょくぶつを見てみよう」をテーマにハエトリソウやモウセンゴケといった食虫植物を展示。驚きの生態やユニークな姿を観察できる。９月５日には食虫植物の第一人者、土居寛文さん（兵庫県立フラワーセンター専門員）を講師に迎え、寄せ植え体験もあるという（予約制、定員あり）。

カブトムシの生体展示や、園内を巡るクイズラリーもあり、小学生以下の挑戦者たち全員にオリジナルグッズがプレゼントされる。９月23日まで。

登山道にも飛来



ちなみに前述したチョウのアサギマダラは、８月ごろになると登山道で出合えるかもしれない。暑い季節は北日本や日本アルプスの標高の高い山などで過ごし、秋ごろから南下の旅へ。六甲山では例年10月ごろ、たくさんの個体が飛来するが、冷涼な山頂付近では８月ごろからちらほらと見かけるようになる。既にアサギマダラが蜜を吸いに来るヒヨドリバナは開花を始めている。

夏の森で宝探しやオブジェづくり

◆来月８、９日　森林植物園

神戸市立森林植物園では８月８、９日、「こどもフェスタ2026」が開催される。両日限定で小中学生が入園無料。園内の森林展示館前広場では、市民団体などの計20ブースが出され、多彩な体験を楽しめる。地図の読み方を学び、コンパスを片手に森の中でゴールを目指したり、松ぼっくりや木の枝を使ったオブジェづくりなどの創作を楽しんだり、樹木医による自然体験講座など盛りだくさんで、丸太を量って重さ順に並べる計りゲームや森の宝探しなども。

このほか園内の生き物を学んで探して歩く「六甲山の生き物に出会おう」（11日）や「おやこバードウォッチング」（16日）、昆虫や両生類の生体、標本展示がある「ぼくらのいきもの博物館」（同）、標本や鉱物、植物や古物などが販売され、ワークショップもある「博物バザール」（同）もある。開催時間や参加費の有無などの詳細は同植物園のホームページを見てほしい。

環境学部

◆きみょい植物展×しょくぶつとむしで限定コラボステッカープレゼント　きみょい植物展（８月16日まで、六甲ガーデンテラス内の自然体感展望台六甲枝垂れ）とイベント「しょくぶつとむし」（９月23日まで、六甲高山植物園）の両方に同日中に入場した人に、両施設は限定コラボステッカー＝**写真**＝をプレゼント。2000枚限定、なくなり次第終了。入場券の掲示が必要。同テラス☎078・894・2281、同植物園☎078・891・1247

総合学部

◆摩耶山リュックサックマーケット　８月15日11～16時、摩耶山掬星台（摩耶ロープウェー「星の駅」）。聴かなくなったCD、読んでしまった本、自分で描いた絵、着なくなった服などをリュックサックに詰め込んで、誰でも参加できる。出店者とお客さんの区別なく楽しめるフリーマーケット＝**写真**。出店無料。当日受け付け。食品出店のみ、７月25日までに事前申し込みが必要。雨天決行、荒天中止。monte702☎078・882・3580（火曜定休）

芸術学部

◆ROKKO森の音ミュージアム特別上演　オルゴールシアター　奈良美智「ともだちがほしかったこいぬ」　８月20日まで、10～17時（チケット販売終了16時半）、ROKKO森の音ミュージアム（六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「森の音ミュージアム」）。絵本や映像作品をスクリーンに投影し、場面に合わせてアンティーク・オルゴールなどの音色や朗読を加えて上演する＝**写真**。各回30分間のコンサート終盤10分間に上演（１日７回）。入場料中学生以上1700円、４歳～小学生850円。同ミュージアム☎078・891・1284

◆シンポジウム「文化遺産信託の可能性」　８月25日～27日、ヴォーリズ六甲山荘（山上バス停留所「記念碑台」徒歩15分）＝**写真**。25日＝13時半、講演①「文化遺産の保存修理」②「貝塚海山プロジェクト」▽26日＝13時半、講演①「公益活動における法人の選択と事例分析」②「国立公園の自然を守る仕組み」▽27日＝10時、大学院生らの発表など。３日参加5000円（学生1500円）、１日参加2000円（同500円）。希望者は午前に作業体験、昼食（1100円）や25日懇親会（3000円）も。ＮＰＯ法人アメニティ2000協会・文化遺産信託研究会メールbunkaisanshintaku@gmail.com、☎0798・65・4303（ファクス兼用）

催しの日程、内容などは変更される場合があります。お出かけ前に主催者にご確認ください。ホームページhttp://653daigaku.com/

まちの価値を、未来へ

大和ハウスグループが掲げる「共創共生」の考え方は、事業活動を通じて社会とともにあること、そして商品・サービスを通じて暮らす人々とともにあることを意味しています。この理念のもと、私たちは地域に根差した持続可能なまちづくりを進めています。

その代表的な取り組みの一つが、郊外型住宅団地「ネオポリス」の再生を目指す「リブネスタウンプロジェクト」です。開発から半世紀以上が経過した現在、少子高齢化やコミュニティの希薄化といった社会課題が顕在化する中、兵庫県三木市の「緑が丘・青山ネオポリス」では、魅力あるまちへの「再耕」を推進しています。

住民同士のつながりの創出と生活利便性の向上を目的に、コミュニティ施設の整備や運営を進めています。当社は、三木市が公募した交流拠点整備および運営事業に採択され、2026年5月に、多世代交流拠点「ＨＩＴＯＴＯＫＩＭＩＫＩ（ヒトトキミキ）」の運営を開始しました。飲食店などの開業に挑戦できるチャレンジショップや、コワーキングスペースなど、多様な人々が集い、新たな活動が生まれる仕掛けを取り入れることで、地域に新しい価値の創出を促しています。また、地域住民が持続可能なまちづくりを行えるよう、行政と連携しながらその運営体制の構築にも取り組んでいます。

私たちのまちづくりは、インフラや建物が完成した時点で終わるものではありません。地域に関わる人々が主体となり、まちを育て続けていく仕組みを構築することこそが重要です。まちを単なる土地や建物として見るのではなく、新たな価値を生み出し続ける存在として捉え、その価値を未来へとつないでいく。その実現に向け、地域の主体的な取り組みを支援することで、持続可能なコミュニティの形成に貢献してまいります。

大和ハウスグループはこれからも、人と地域がともに歩むまちづくりを通じて、社会に新たな価値を創出し続けていきます。

Daiwa House®

↑「HITOTOKIMIKI」フリースペース

↑「HITOTOKIMIKI」外観

わたしたちは 六甲大学 の活動を応援しています

Daiwa House®　想いをかたちに 未来へつなぐ TAKENAKA　六甲山観光株式会社 KOBE Mt.Rokko ART & TOURISM Co., Ltd.

（順不同）

【実行委員会】六甲摩耶観光推進協議会／摩耶山観光文化協会／灘百選の会／神戸観光局／神戸新聞社　【事務局】神戸新聞地域創造内　e-mail:info-653@kobe-np.co.jp